東海道中膝栗毛三編

六下

へ13
3286
6

門 へ 13
號 3286
卷 6

昭和十六年一月十一日寄贈
尼野貴英氏

道中膝栗毛三編上

清

まつのあきかぜに紅葉のいそがしけよ。ゆきたる紅葉

の馬の駒は紅葉をまつの間をとまりの白がら。鶴ゆく

水八幡宮を出て支度をとりもち。お花のいもうと。

新ものくらうしぬるもおかしくをとこをふるこゑ

拳角の八幡と行るを存るまつの紅葉が田と

いくるゝ雨ぬれば紅葉をまつ

千ゝしぐれ一きつの紅葉ひきとゝへて

あ　ほ　山のよ　ゑど　田でよ　き

[illegible]ゝ　[illegible]門　[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　[illegible]

[illegible]　[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　[illegible]

[illegible]ゝ

けんどうまと　ふぎり　あひ　川　ア　ア　ア

さんぐろくぶ。なんの句ぐさ。ぐもいこと。ぶ。あく
ぐまちと出しこうぷ。ぷいぶれも川へまいこう
きのぐくる。ぐぐ。それで一箇中こうこさ

えまく。ぐう月のなごき人。あるぐうし
むこのハきやまき　川のなぐれる

小八
引こうこうも福へ下りてこうんぐぷ。さんく。とちぐ
うこくるれなぐ。きものとちぐ　陸　ふるう
月ぐこうハ川と月こうれう。ぐう　とこぐ。ほーもおれめく
こうう。ぐこ知ぐこと出してきるれ。ぐこぐをさんて

能

りうつてあぐうつ。引いまくしい風とひいこぷ。ぷ
ぐう　シやく。トぐうぐ。ぐぐこぐをいるぐうきぐを出してきうぐこうく
きりのハちるて月ぐけ出りくしとかぐるくの月の宿こいこる。
ぐうこる
雑泉の茶屋おんなへおめ志ようあぐうまぷし。雑と
さんふあく。千大指のおきをんのめもおざくまぷを。
鞘のせんだ蕎もおざうまぷをおやとこなさん
まぷしくしるぐうちくくへあはべなぷ。ふくわぐなぷ。
ありするれなぷ。ぷ。いれこやなぷ。ぐ指ま
ちこと　なぷ。ぷ。ぷ。

ヨヤきさ八さん。さんきの座敷あらが。おて
とう呑でけつらるハこの川いてとがあるぞ。おいらこと
川へまめくこ言ひ返しをとしてやろう。トつそこゝゆてがのざ
いるちや。ライ。ほめんなせへちやあんるハおいでちなさんま。ト
ちやとんでくるやハちの。おきつくでもなさんまさとろハまぐ
ざこの日ハへにこうけこ
後がぜんぽこなぐ。ハ。この不ましやをこ。ハア
稲つらこ。酒がうあよつぐ。ハ。ハア
さ良ぬ。ほてんしをくぐ。ハ。ハ。ハ。
川へまめよ今の川へまめ。ハ。ハ。ハ。
きこうこ。ハ。ハ。ハ

ありつるあんぺ。こんなこと、まてども。ろくでもないあげと
しそ。おちのめさるりんぶ。イヤ　財ふ　さいどふ。
さる市　ホンニ　ヨモヒれ　ト　ちやうと　あげてのまく　ヒさ　ヒ　ヒ　こぶ
そこ　ト　そこ　あうと　ハ　ヒ　めのような。あらこあてさ
そんト　まこと　たいつぎ　ひとくちのんで　ちさな　大市　うりして　ふるあへ
おくしかハヒそうと　ふとせのんで　ちさ
ざうきの　ちうが　まこと　おうり　かろへ　さる市　まこ　あいつえ
おろうこと　ちきと。　きり　ちきと。　ちどうこと　ほうこと　ひて　ちぐ　あろ
ちろ。　まごうこと　ひて　ちうぐ　ろう。　ちろの　ちいろ　ちうが　ちうぐ。

ト　いこ　ぐ　ぐ　ぐ

とあるどりてぢいんる 樓ちゃとさーあうぅ。二合の酒ぐ
うぃと二タ口のむ〜。りふなるぞぜさりんぐ〜ハイ
それい二合。ちうもうぷぃはいでぁげまーしょ。
大うとこぶ〜なさうぅりんぐんて 十二ちぐぞとん
ぐ。高人ぅ 似合ぬてうとさーあうぅ。けぐ代ぬちう
ひまを也ぬぞ〜ちきるぅぅぅ

チャ〳〵〳〵さる市　そのまいくへぬ。子たへ亟亟ぢ。コリヤヤ
こんこまものよこどりしてのんごよちがひへなぬ。酒
代とちらしめれ。ちゆれやれ。ちゆうとへちやるい
もないこと。ちやぢ〳〵ちゆ。ちゆきちらのんごへ
ちやだろう。ちやこう〳〵ものちやけとちやくぶく
しこおぢへへごちゆ〳〵ぬ。ちるんちゆれぢけャ〳〵一ャ
元　見同のへへぬりのごとおりりてちゆちらこおろ
ちゆれ。ハラへてぬこ子ぢ。ちゆれ。ちゆ。ちゆ。ちゆ

合のんぶ。こゝろも孫へ。
きまつこゝろ。ゆめ〳〵きるこゝろ。なんでもおさ
まらず孫へ。ものあるかうちゝこゝろ。きまや
とめるもの。きしもるしゆりもきこゝ。
こゝ。六十四文。きまつて。きまと。
大きゝこゝまゝおぶきこゝも。きんこゝであるゝ
ゝのこゝ酒をよこゝしめむゝゝ。
きこゝゝゝりゝこゝろゝ。
とゝこゝこゝゝ。ハテ。こゝちゝこゝゝ。

うんなせ。こりゃ。ちゃ。ちゃ。ち

これぐ[注二]るぐる[注二]コリヤ　ゑゑ日ゆゑなんの用ぞ[注二]イヤ　さうゆゑ　その男

又下さるませ〳〵[注八]なんのこゝろぞ　それでおちつい

さ。ソレ　きゝ又[注一]あつかう　行とつぶさま　アグ[注一]ていま

くしん　ゑ　金めぐ[注一]トつぶれ　ぐ[注一]ゑ　ゑ　ゑ　

くものじやが。おるでいきよるんちくしやうかをこしやるものが。ちよとくさとりれて。ちよこちよこ。
ちよつとちやまこ。ちやうも人よふれまいれて。
ゆくさんなんがらつこ。ちやちやちやうんが。
おまいぐこも。さごめて。ちなきるどやあろんが。
ちやうんが。ほどりくるどんが。ちつちやうい
ど。地面のちやこ。指ちやこ。ほれなくしさりぐ。
ちやこちんでこちんでこちやうぐちんこ。ひくのちちやん

なちこ。ぱけちんいで。ちやうが。ちやが。ちやうが。
ちやこ。ちやこ。ちやこ。ちやこ。ちやこ

せんとうのぞくらくようすこけでまつことをいる十二
そのとをあのあるほうでものめ絵へくらいのてだんさ
をるが。をどうのをのきしをしてをかたをでをこをる
ほうてだんるが。おをどのををんへ人ををしひどや
をるを十二おをこをもはきこるとはれて久をを
きんををやいくらでも代をよこしやを八
ををおをくらへ大ををのおきをくしやないをのをの。をの
つきこををいをこを。ををしらが者のををくを人

ををのををを

隨二

ハテ あそこふもあるやまでナアきと八ツ手さうまで
うつ。ぞまつて安てある。ア。孫八さんおめへきいと
ちうぶ。女郎衆家るいつとこもなくて。人の屋
をきてうぢつて。出ようぶんむのう。郎ちのさい。
面目めくはしよごぜ。ア。ちうめ。出れぞ人て
いう孫八りのう。まつもッとほめへと孫ふつ出ちいろさ
ぞ。ア孫八今一ア。あの大金さんのさむ〜いの時。
へ。孫ふはれとも出ちはぼいなるなど武者の
はとめとおぶまつつ。むまうちるなのさうあでむきさ
この版をとかうけでのんぶ附の孫八。えんるおうつが
まつつておいとうをはくぜ。ばうそるりんち
ちうもとめと孫。おめへさんまの肩と鳴へさて。
版をあこいぞい。ちのみ。ちとやノ孫八。ぼこア
りへうぬが用まちで。あまざけとくつつて。ちと
やけどーとまつアいとまを。やて。そのかのうぬおめへ
ちまで。ちうて紙入がおちてあると。たのくをを法

うんごしやア弱人ゥ。業さらしハ上方イヤ先ア歩まい
ぐらい。さんしゆく。ゆくゆくハ。やくそくしやア。
なんでもおくびもうハ。ちやあり。おきやア。かゝるく
ばべらべらしく。ものやらうぶ。ハア。こやまや。出めん
ちやきん。ドレ。おさらへ。まいりやア。ト。さらをつぶしやうまあ
ゆきまい。いまくしいうぬらは。一ぜんとまされとゝ
いのるしのうちみのもしとちやうの。ハ。ちやうのもしとちやうの。ハ。
ぐらものろふら。おまいちやア。まいりやうまやあらう。
ぐらものろふら。おまいちやア。まいりやうまやあらう。
ぐらものろふら。おまいちやア。まいりやうまやあらう

さへ。まるひのうへにおざるゝおもてもさんやうこ。
郭内のあへふんがざらしふいうどとまりてこがに
よこさとのおんなあどへ。はいでえんえんをする
さんよ。ごとうが。はがあるかあとびながらもがいい
いけてよう。ゝ。又このごろ。まどいどう。このこの
るはもんがるるざ。もんなるでもざうへ。ぞうで
のうがよいぶんなるよ。おどいどざるのしをどへ
本所。ゝアきいとざアゝらも。おいけざうの

さんふついていきあいざ。その本所とゝろへ
おんでもばるい。あきへ人むりなることアのしを
そばよおいざ内も。京内七八年人むりのこしぶ
ゝりやアはさんそよる。おうのさるが服をくもこいてい
のこんでいるへアゝおざ。ばへ茶ういざ。まもま
ゝアとを拝式合。よいでまで合ざらぬこゝりやいざる
ゝおばさる角ゆき。ゝへアは本所のざへなが。茶を角ゝ
実しあるもざ。ゝ十二さんざとを車でおへ也。ゝへさへ

鴨長明
この川の
ながれ
の中
人の
ながれ
の
ながれ
ながれ

ぐらゝ高ふいゝゝ志まとへ十二ゝ志まう。アこうと。
二ゝ天作のハぐらゝ。二ゝ五十。二ゝ八十さいでふこはけしまそ。
四ゝの中で茅ごろ枝と見れば むりんのうの三年八月
七合ゝ五ゝのだゝうも志りゝ八ア なゝ人ぶうおゝぐ
茅ゝ八むつゝんゝ五ゝらゆやアゝゝ なんれば五ゝう
枝ゝぐぐ。志ふもゝ五ゝう稲へゝゝ。ゝゝ志ゝのゝ志。
稲ゝ志く天狗ふゝう此川八信州ゝゝの郡
よゝり出。志の郡と大天狗。蔦ゝ小天狗とゝふ。

舟ゝゝの大河なゝ。泛ゝ出ゝ志ゝ待うけて作ゝ
この海ゝぐゝう志ゝこゝゝるゝゝて
あゝ上ゝゝ志ゝゝう出て鱸ゝぐ
なゝゝの さゝうまゝく天狗の川
舟ゝうあゝゝて逃場の所ゝいゝる。山ゝ八江戸
へゝ六千里。蔦郡へゝもゝいゝ千里ゝて。ゝゝう志の和
なゝれば。中の所ゝいゝるゝ
けゝゝゝの乃中なゝで茅鞋ゝけ

第五十二　こぶへぬ　中の所　文台

そしらかようかんだ。せんぬ海鮮四そうちまと気をみる

わらべくちなるに。演　松の中ゞ引出面ひて一セル

あるさぐ。ア　おしゑ　ありなく　おやぢとお手ひゃまを

女のいのがあるちなしと　ゐるやせう　まどれぶく

おざうまを　ゐるらう　飯もくいぜるう　あけま

せんで　コレせま　ち仙をくいぜる　前不のくあ

ちまくまを　あげませ　ゐるう　ゐが　ゐるうれもう

おぞやアあるめへ　ゐるうげ　ゐるのよ

なりめをまり　ゐるうこ　ゐまへうや

くのちくあ今　ゐてちくぐ　ゐるうこ四ケ

日あちしこ　ゐうこ　ゐハいる　ゐるこ

ゐ。時ゐふまいりまし　ゐり　ゐも松ゐ

のゐ　ゐ　ゐ　ゐ

さりくあゆむ　ゐれて　ゐ

ぶきけくまこ　ゐ　ゐの風

ぢ引きえへ　ケけ　ぬけて　一ぱい　おつきぐアよ　ぢ　一ぱい　おさんぱ　おさん

まりさつた　おさんぱ　おちやと　お湯ごよ　一ぱい　そんなか

ほくへよこれも　せぬ　そんな　ぶふろまお

ぬ　おさます　湯　薄　切ハごと　ご　法　さん

さんくやらし　極へ　いまくへ　ふ　ごと　男　ごくめへ

きくへ　イ　ぬれ　ぢ　ちイ　お出　なさ　ろ　ま　し　ふへ　ぶん

ぶいきぶ　内　ぶ　ろ　ぢ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

さんるをうさんをやあ及ぶかんぐ。時ふかハ。湯ハ
ぞぞぐしさをハしよりあぐ。ぐい。湯ぐこ。あんまりあつくて髪が
ぬけ。ぬ。ぬ。ぬ

アとまつ〳〵そ人をうと〳〵はてしいもの又よいそしぶ〳〵て。
あの女をうちのわ〳〵。そ飯をうつ〳〵ゝ
まんぐまつはいて。あの女ぐ又ぺうこゝろのようふかゝれち
ぐひよるうぐりんぐんて。それであんなよ毎晩百万
ぐんをくうあうまを
なんぐ西まぐまつはいこゝへてのうちへまうう
まいぐ出るうの歩るぐんうををほうぜ十二うを
おきアおぐ〳〵ねまいぐんこの夜祭のうへ人をまつい

すりのぐ〳〵ねてゆうのをうまを
コリヤ　ぐんぐ西をまつ合をまつ
ぐひをうつ〳〵附の新民をうふりのハ月半なこを
ぐうり〳〵まいて畳洗をうをしを歩をぐひを
て。それ少ぐひきをうをうる旅であるさ川りるア
どこで一まう口ップレ。まいのうしろのあんさ記て
コリヤ　たまつねぐ。ぐようぐひをぐぐりくまる
ようぐ一あ食をうく。をうをおくく角ぐふう出〳〵ハ

あのきけるいこんやるごらへきへ〜出そうなこんざ
イヤヤコレあんまるの。りふけへつてくださいアリスさう
きれのおくるいちだいえがひきいれるよふざ
るんすーでもいまくいるるどるーりさこりて猫二疋
るおるるぐるるりふまえりへうふ八いるふざ有りうア
りふ孫よりへりまるるりるきげんよくトあいまハ
しるるるゆくけ内はあるるるるりりり

泳二 コノちくしゃうめ。シウ〳〵 ゐなのおとゝ チャアシのきるおちる あまこうれ

ゐ。こうこう まつもあつく まよひ まよひ子の声を

やアは チャ チャン きこえ ちいさい のそでこうさー のそき ふぐ 泳

ひきん。まぐ いきて ねる 泳二 ゐん まぐ く。時よ

とまり とぐ ゐる。ゆ ふぐ ゐ ゐと

ぐいる ゐ ざる ゐ ゐ 泳一 ゐん ゐ おりひさろて

りろ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ

ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ 泳一 ゐ ゐ

ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ ゐ

でこのとうり。おくびやうなんさ人出こゆとアて一ノ中
あれへ結ぶ(どだん)ばでおざうまを。コリヤ〳〵おさうやいく
目が二れくなやうなもうりものをちうぜをうことをよね。
そうてさうきうく。あり(あり)がろうついてきてまらくー
くちもちなんなもじ。きこーコリヤア。おきのどくさを
でおざうまを。一ノ中ちうあでとんとうくことア
きこく絵へものぶ。なぜう今(いま)ぬ中の張(ぬ)ところが
まうりのことそうるハイ(はい)おやまをこをさんまーしうくゆく

ゆく二ノ中いまくしぬ。大きようきもとひ中ーと(ゆくよ)(ふ)(おちうき)
あんさんを出て見れば。なるほど女が者(ものだん)をとうえざる。
きうもふ用をうしてどうきへくうて
ゆくまんとおりひの糸よせんざくの
ざを(ざ)だんの乃(の)をうこくおぞへて
きどめて見くひと催(もよほ)し。ふちつ絵(え)をうく
ぷ。きんの箱(はこ)をむきぶよ。わどるくやて名の銘(めい)
の丁(ちう)名(なを)毎(ごと)ようひ生るいきはーさあ生(なを)の
るのきでのおく。シャンくまの一ノ中だんよごきくハ

ふアらうかうどぎれよう。おりてくろうと戸で。おくいらさを
るよう。ヒーン〜〜〜

なで
ツリヤアおとものかんだんでおざるハ弓イヤ矢ヨ
まだこてらへこのでおいでぞうをでらこい弓いく
つまんせまを一ナニ三ッぞうくんな一ドゼふとそしひをさまを
弓イく。ほんさんく一なんぞうめへものるらちゆと
くれろ弓ごうぎまうめへ一ドこひとろ弓イヤそれろれ
らうどろトまのひくくのをてさーあざるとーいまく
とらのきるハ。えびがまちまいとさるとーいまく
えびがまちまいとさるとーいまく
とらのきるハ。ゲとろ下戸ぞそふるーそるがめを
まるとにまをがれも世ぬそのうんよ。

そるとあうせーそびのふくさるハ
ねどるく茎泥ぢ舟もとまるとあるとの鉄
あるる。是よりあら歩まで上をの浦と茶
合ぶまうちのうまるるげふも弦中乃毛
さんどハ。紙中おりひくの雑使。るあふうう
合。茶ひのまくお角ゆくるるべ
まるて。茶合の人くもるーそびれやく
柳ごるる射とりるげでい弦ふをるもあう。

又この風俗を見てもれて。にはい踏絵をしてゐるものと
この手ふ合のうちは。ぞーのところ子ぞうのひげ むーやく北ちおやぢ。
いふもおぐきうゆのことをきさるが。ふとくーうひけんけいめつめう
人ごのひざのまことをさぐり。又ふうもぞうをとりちあげ。まきつよりめを
さぐし りくもるよふをゆで。ほこてぐ までの下をさぐ まいを。ほこて
そのほとこ ほこ コウ きさう見ハちなんぐ。てうるまよ人の 彼
をさぐ ほこ そるんとをる ほこ イ はゆるされまー。ぷーハ
ちくだとこ。ぐくなしとりのがござるう ほこ おめ人なく
ほこ くりのがあるる。とくーとほこてうぐ ほこ イ。ぷ
ふ孫のゆでぐ天をゆくくてちなんぐなどを

入りきせるう ほこ イ ニヤ そんるゆ ほこ ア ござうるい ほこ ヤ
そんるくー 銭う ほこ イ ニヤ ようぐ ほこ ほこ
ござる ほこ ニ ふぐ ほこ ほこ ほこ ほこ ほこ ほこ
してゐるうちそこてーア さぐうまいをこてア ほこ ほこ ほこ
ほこ ほこ ぐ見へ ぬいなさ ほこ ほこ ほこ ほこ ほこ
でハをまぬ ほこ イ ニヤ ゆ人よくーござる ほこ ニ イ でハをる
ほこ ぐ見へ よ ぐ見へ や せん ほこ ハ ア そんるう いくまをだいこん
るぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ほこ ほこ ほこ ほこ ほこ ほこ ほこ ほこ ほこ ほこ

ずぶしとつてぐれぐびつうつきるものぐ糸ふぐ
ゐんへや世んアイ蛇ぐ一疋なくるうヤさ〻ヤアりく〻
さんぐさとうくんぐ。へびさァなんのるびぐ〻なつん
ぐぐんとうていきさ蛇でぐるハヤりく〻イヤーさ
さるもさんぐすのとりてきてぐへびとア小ちゃんる
きよりふ〻おりのて小とりのいかきさの昌んてら
ふハいねらト〻もさんげバぜんちうこうヤアとの板まの下
ぶさぐるさまんてゐるハりりヤそろちいからへりのさ。

ものとやきさこの昌んぐソしくあけ巻の志さへ
さひさんぐぐコリヤまあ。さんぐ人とのりあやさ
と世んちうとさ下へひつうくし。こちさ目ぐらのあ蛇小コレく
あけるさくりのけへひとるくのるるくつさ又ふところくる蛇コレく
おめへくんぐさとさとる。それとふところくいれて
おくく。又さひ出るさとハうこうへうのちゆて喜ま
ひなせへ小ヤさてそハちゆりヤさね。但しへハア
きれきのさんひ〻さるハいくりへぐぐ。左中略掲
よつきて。さとぐんよハぐぐさうなんうる左でこの

ゐびとこうこうとさんらいゐびつうひよなのいて。
きこえつゝりうていくゆんぐ。コリヤア 巨 が。きゆう
ぢいのうめでぢぢるハ 小八 イヤなんが。きさゐが。きゆう
ぢいのうめぐごとりて。ゐびとりてゐるまゝ。ぐふ
してうきゐよゆゝ。きるゆめぐ。コー 毋 ぢ ぢ ぢんなぜ
ぢいハるものをふ。ぢ。ぢ。ぢ

ちゐさし。へびのあくまとおさへるへびとのまくらやまたつきさるとちよいとうえべるうりなげうりくびこそよくはがきべりまたぜーもいうきさまうえうちこそるうまうれしたんそどまたぜーんうけうつゆうすそるべれうぎさハんがくるくまよりそうるぬへおやぢこれまでもそこそとるるくくこれでおもういうきうーもうこののうりあをこるくくこれでおもういうきうーもうこの

ぢくなこしハあるこのおこーのりうぢこーへ

このこーまいるがさまこざーのなぐれうのこんじ

めてはんやこと引ハけつのあるのせめへこーといふ

おやぢめぢおうきうのころも川ぢ家きこち

おうーぢしこーきやア。ちかもよろひもなかさ

ちうふこぢ品ぢ川ハこやきアハアよろうぢがこ

いうくなうやをとぢやなぢ指ぢいふきころ

も川。さいづちぢうながれうといふながあり

りうを。弁けんのさこておを出やうこーのりのハ。

なでこーらえこりんぢこうぢ。なぐれこるアぢこざ

んなんの引ハいうこをておをきやアよくきやなる

きうぢこをいめぢ。こうこをぢこーてやろうト叔父

つこうこと能ハ引りこをこハうあーしやのう合のきうの

泳ぐちりとも

大橋

毎まへもあり。さぶまれしく（ト是とるごめうこうがのいまそ。あ〜丼ちく〜なり。）
ぜんどう　ぜきまよ
ぜんぜん　冥加まへでどぎる。ものさ。をとと〜いて。
ひぜごとをとさろ出りまゑ。ッし〜丼があろう
まるとろで。のり合　やし〜こでとろりるくついて。ものでこれ
〜　ぎくふのいあ〜丼のそ　ようきれべのう合こるく
ぜとあぐ〜お冥加とちるを絲下わいもをとあぐう
　　いまぎり
　　ぎれ　切さのり出〜さるい今切〜
　　まで〜く　ひまもあり丼あぞ冥
　　ぜんぐい
ぎるまでも。擬のりのながれうへお代冥宮

のそ切りのこ稼し。こぐうう丼冥ひつ小八
竹菊比をとて〜ものひ〜男ぐう
おく　ほふ〜とへりふいいれまい
それよりふうへぱあら丼の者くは汲ふ
かり〜てあ〜とやとちんぬ

道中膝栗毛三編